報告記事

第74回通常総会
第117回講演大会

平成元年4月4日第74回通常総会・名誉会員推挙式・表彰式・特別講演会が，4月4日から6日までの3日間第117回講演大会が横浜国立大学工学部で開催された．

第74回通常総会

第74回通常総会は八木会長が議長となり，木下副会長・専務理事司会のもとに4月4日9時より横浜国立大学工学部202教室で開催された．冒頭に八木会長の挨拶が行われた．

本日ここに，諸先輩をはじめ会員諸兄とともに，社団法人日本鉄鋼協会第74回通常総会ならびに第117回講演大会を開催するにあたりまして，一言ご挨拶申し上げます．

このたびは，横浜国立大学関係各位のご理解によりまして，多くの施設・会場をお借りすることができ，誠に有り難く厚く御礼申し上げます．つきましては，通常総会をはじめ各種行事が，円滑に運営されますよう祈念いたします．また，本日から3日間の講演大会は，発表件数は734件であり，その内容は基礎から応用さらに萌芽・境界技術へと広範囲にわたり将来への意欲がうかがわれ，ご同慶に堪えないしだいであります．

さて，わが国の鉄鋼業は，昭和61年度に未曽有の経済打撃を受けましたが，政府の内需拡大策と，鉄鋼各社の徹底した合理化努力等により，ようやく安定したとも思える好況に転じてまいりました．この間，特に鉄鋼の技術者・研究者が行つた技術研究開発，各種製品の高品質化等のご努力には敬意を表するしだいであります．

一方，このような状況の中にあつて，本会では，昭和61年度に行つた「臨時協会事業検討委員会」の答申を尊重しながら，厳しい節約予算の中で役員・委員が一丸となり，本会が鉄鋼業を技術面から支える学会との認識のもとに，共同研究会，特定基礎研究会，鉄鋼基礎共同研究会，その他各種研修事業等を通じ，生産技術の向上，基礎研究の充実，あるいは技術者・研究者の育成等に努めました．

昭和63年度事業で特に申し上げたいことは

1．会誌「鉄と鋼」に含まれていた講演概要集を「材料とプロセス」として，昭和63年度から独立させ，かつ，有償頒布といたしましたので，皆様にはご負担をおかけいたしました．しかしご理解を賜り本当に有り難うございました．

2．欧文会誌は，平成元年1月号から会誌名を「ISIJ International」と改めました．これは本格的な国際誌をねらつたもので，内容の充実と外国会員の増加を期待するものであります．

3．鉄鋼技術情報センターのあり方を検討するため，企画委員会の中に小委員会を設置し，早期に改善すべき主要事項を明らかにしていただきました．平成元年度は新運営委員会のもとに，更に充実させたいと期待しております．

4．本会創立70周年を機会に発足した学生見学会は，すでに4回開催いたしました．先月実施した第4回見学会は，応募者数576名，延べ746名で金属系学生はもとより，機械，電子，資源，物理・化学等広範囲の学生諸君が参加してくれました．このように学生の目が鉄鋼業に向いてくれたことは，たいへん喜ばしいことであります．

5．また，「研究テーマの公募公開制度」は，すでにご存じのとおり「産・学間の研究指向が確認できる」という，たいへんユニークな制度であります．この公募公開の結果，15テーマには本会から特別研究費を支給しております．

また，金属系材料研究開発センターに推薦したテーマ「半凝固加工プロセスの研究開発」は，既に採用され，総額約30億円の予算で鉄鋼・非鉄・重工各社の共同研究として実施されているものもあります．さらに，企業と研究者との結び付きも期待でき，かつ，鉄鋼業が望んでいる研究基盤の強化と21世紀に向かつて，研究者・技術者の創造性を高め，同時に意欲の高揚等に役立つ制度であります．今後も公募公開制度を継続いたしますので奮つて応募して下さい．

6．国際関係では，「加工熱処理の物理冶金」国際会議を開催し，111件の論文発表と，参加者数は外国から88名，国内118名合わせて206名でありました．また，本会が幹事国事務局を引き受けておりますISO・TC 17事務局ではオスロで総会を開催し成功を収めました．

7．次に，特別会計の寄付金収入につきまして昨年の総会で本会元会長故・澤村宏殿記念事業資金として，澤村家から1000万円ご寄付賜りましたが，その後浅田長平記念資金には（株）神戸製鋼所から，日向方斉学術振興資金には住友金属工業（株）から，さらに西山弥太郎記念資金には川崎製鉄（株）からおのおの1000万円のご寄付を賜りました．誠に有り難く厚く御礼申し上げます．つきましては特別資金による各種事業も，いつそう充実して参りたいと存じます．

次に，予算に関連いたしましては，後ほど詳細なご説明がありますが，平成元年度は，「臨時協会事業検討委員会」の目標年度でありますので，予算編成には関係各位にたいへんなご努力をお願いいたしました．特に「亜鉛および亜鉛めつき表面処理鋼板」と「材料評価」二つの国際会議と「日本-中国鉄鋼会議」を開催いたします

ので，この予算が必要でありましたが，何とか答申に沿える予算を編成することができました．

本日は名誉会員推挙式において，岩村英郎殿，塚本富士夫殿，久松敬弘殿，川合保治殿の四名の方々を，本会名誉会員にご推挙申し上げることになつております．また，渡辺義介賞，西山賞をはじめ，各賞の表彰式が行われますが，新名誉会員ならびに受賞者の皆様のご業績に敬意を表し，心からお祝い申し上げますと共に，今後共いつそうのご活躍を願うものであります．

会員の皆さん，鉄鋼業界は現在，各社とも事業の多角化を推進しておりますが，これはもちろん，鉄鋼事業を経営の基盤としてのことであります．従いまして，われわれ鉄鋼技術に携わる者は，更に技術開発・研究開発の推進のために努力しなければなりません．

今後とも会員各位のたゆまぬご研鑽をお願いいたしまして私のご挨拶といたします．

以上挨拶が行われた後，総会の議事に入つた．付議された議案は次のとおりである．

議案第 1 号　昭和 63 年度事業報告，収支決算ならびに財産目録の件

議案第 2 号　平成元年度事業計画ならびに収支予算の件

議案第 3 号　理事，監事ならびに評議員選挙の件

初めに議事進行上，議案第 3 号から始められた．選挙管理委員に竹村　裕君，大河内春乃君を選び投票が行われ，別室において開票に入つた．続いて議案第 1 号ならびに第 2 号は関連しているので，一括議題として付され，これを事業と会計に分け，事業については，竹内久彌理事，会計については豊島陽三理事からそれぞれ報告ならびに提案がなされた．

「昭和 63 年度事業報告ならびに平成元年度事業計画」

（特記事項）

特記事項につき御報告申し上げます．

昭和 62 年 4 月に臨時協会事業検討委員会から協会事業範囲，事業運営の基本構想，事務局のあり方等について答申を受けましたが，その対処方法につき昭和 63 年 4 月に取りまとめ報告をいたしました．その一環として，昭和 63 年度より会誌「鉄と鋼」から独立した講演論文誌「材料とプロセス」に改め，春秋各 3 冊計 6 冊刊行し有償頒布として収支改善を図りました．

鉄鋼技術情報センターについては，さらにそのあり方を検討するための委員会を企画委員会に設置し審議いたしました．その結果図書館機能と国際会議資料のあり方及び JICST 受託業務のあり方につき早期に改善すべき点であることを確認いたしました．しかし，中長期的見通しについては審議を継続することといたしました．

そのほか事業関係の特記事項といたしましては，欧文誌「Trans. ISIJ」を 1989 年 1 月号より「ISIJ International」に改名し，国際誌として内容を充実いたしました．国際交流事業関係では加工熱処理の物理冶金に関する国際会議を開催し，平成元年度には亜鉛および亜鉛合金めつき表面処理鋼板と材料評価に関する二つの国際会議ならびに日中鉄鋼学術会議を開催する予定になつております．

ISO/TC 17 幹事国事業では ISO/TC 17 総会及び ISO/TC 17/SC 1 会議を開催しました．

（会　誌）

次に各事業の概略につき申し上げます．まず会誌関係ですが，昭和 63 年度の和文会誌「鉄と鋼」は，普通号 11 冊，特集号「連続鋳造と熱間圧延の直結化」の計 12 冊を発行いたしました．また，欧文誌「Trans. ISIJ」は特集号 4 冊を含め 10 冊，1989 年 1 月より「ISIJ International」を 2 冊発行いたしました．平成元年度の「鉄と鋼」「ISIJ International」は共に各 12 冊の発行を予定しております．

（講演大会）

春秋の講演大会は，春は千葉，秋は大阪で開催し，発表件数は討論会を含め 1601 件でした．また，平成元年度の講演大会は本日より 3 日間横浜国立大学で開催し，発表件数は討論会を含め 734 件であります．秋は北海道大学で行われます．

（技術講座等）

昭和 63 年度の西山記念技術講座は「実環境における構造材料の信頼性評価技術の現状と課題」他 2 テーマにより東京・大阪で計 5 回開催され，白石記念講座は「航空・宇宙開発の動向と将来展望」のタイトルを取り上げました．平成元年度は西山記念技術講座を 5 回，白石記念講座を 2 回予定しております．鉄鋼工学セミナーは合宿形式で，製銑・製鋼・材料の 3 コースに分かれ宮城県蔵王町で開催され受講生は 163 名を数えました．平成元年度も同規模で計画しております．

（調査研究事業）

共同研究会は鉄鋼全般にわたる現場的な研究と情報交流を 19 部会，14 分科会，8 小委員会の構成により行いました．本年は従来の研究活動を行いますが，先日製鋼部会が第 100 回記念部会を開催いたしました．さらに 11 月には，計測制御部会が 100 回記念部会を開催する予定です．

特定基礎研究会は鉄鋼業界からの要望課題について基礎的な研究を行つておりますが昭和 63 年度より「応力下における腐食評価」「構造材料の信頼性評価技術」の 2 部会が発足し，4 部会で研究活動をいたします．

本会と日本金属学会，日本学術振興会三者にて組織しております鉄鋼基礎共同研究会は昭和 63 年度より「鉄基複合材料部会」が発足し，4 部会で研究活動をいたします．

標準化委員会は鉄鋼に関する工業標準化を推進するた

め2部会31分科会の構成で活動を行つております.

鉄鋼標準試料委員会は化学分析用，機器分析用等標準試料を製造頒布し，国内外の鉄鋼分析技術の向上に努めております.

(情報事業)

次に鉄鋼技術情報活動でありますが，臨時協会事業検討委員会の答申を踏まえ金属関係文献を抄録し，検索システムへの入力作業を行うとともに端末機によるシステムの利用と普及に努めております.

また，中長期的展望につきましては，新運営委員会のもとに検討してまいりたいと存じます.

(会　員)

最後に会員数についてでございますが，鉄鋼関係の技術者，研究者の他部門への異動に伴い昭和62年度に引き続き昭和63年度は127名の減少となりました．会員各位にはお互いに我々の学会であるとの認識を深められ会員数の増加にご協力いただきたく存じます.

「昭和63年度会計報告および平成元年度収支予算」

(決　算)

まず一般会計決算の結果，収入は8億9088万1340円となりました．本年度は，維持会費，刊行事業，鉄鋼標準試料事業，国際集会事業，利子等の収入で約3133万円の増収はありましたが，個人会員数の減による会費収入の減，繰入金収入等で約1002万円の減収となり，差引きは予算に対し約2130万円の増収となりました.

特に，本年度から実施いたしました「材料とプロセス」の有償頒布により皆様にご協力いただきましたことを改めて厚く御礼申し上げます.

一方，支出の部におきましての決算の結果は，臨時協会事業検討委員会の答申を踏まえ極力節約に努めましたことと，一部事業の繰延べ等により約3300万円の節約ができました．しかし，一方において臨時協会事業検討委員会では予想できなかつた建物の大型修繕計画がなされ，約3000万円の金額提示がありましたので，この内，本年度で2700万円を積み立てることにいたしました.

この結果，支出総額は，8億3642万5080円となり，また，次期繰越金5445万6260円をもつて昭和63年度を終了いたしました.

(財産目録)

なお，決算の結果，昭和63年度末現在の一般会計保有の正味財産は，記載のとおり3億8609万3561円でございます.

(別途資金会計)

別途資金会計は表彰ならびに事業資金ほか17の会計を保有しており，それぞれの目的に応じた事業を行い特別資金運営委員会，理事会の議を経て支出し，または蓄積されておりまして，収支決算および期末保有の財産は資料に示すとおりでございます.

特に昨年の総会で本会元会長故・澤村宏殿記念事業資金として，澤村家から1000万円ご寄付賜りましたが，その後，西山弥太郎記念資金には川崎製鉄(株)から，浅田長平記念資金には(株)神戸製鋼所から，日向方斉学術振興資金には住友金属工業(株)から，おのおの1000万円のご寄付を賜りました．誠に有り難く厚く御礼申し上げます．つきましては特別資金による各種事業も，いつそう充実して参りたいと存じます.

(補助金事業等会計)

次に補助金事業等会計につきましては，7の特別会計を有し，補助金あるいは他団体の分担金等により運営しておりまして，ISO幹事国業務会計をはじめ，いずれも充実した事業を行つております.

そのほか詳細に付きましては，資料をご覧いただきたく存じます.

(予　算)

続きまして平成元年度収支予算につき，ご説明申し上げます.

(一般会計)

まず一般会計でございますが，平成元年度は，臨時協会事業検討委員会答申の目標年度であり，関係各位にはご協力をいただきました．先程八木会長のご挨拶にもありましたように，本年度は二つの国際会議と日中鉄鋼会議開催の予算を計上いたしましたが何とか答申に沿える予算編成ができました.

すなわち収入の部では，前期繰越金を含め総額8億9922万2260円を計上いたしました.

一方，支出の部におきましては，事業計画に基づき予備費を含め8億9922万2260円を計上いたしました.

特に申し上げますことは，本年より公益法人会計基準にのつとり各事業費には，間接的経費を含めることに改めました．ご参考までに，従前方式の予算も掲載いたしましたのでご覧下さい.

(別途資金会計)

別途資金会計の予算は例年どおり特別資金運営委員会および理事会の議を経て事業計画をもとに編成いたしました.

(補助金事業等会計)

本年度は大方継続事業でございまして，ISO幹事国業務を含め6の研究会計等を予算化いたしております.

最後に，この4月より消費税法の実施にともない，本会も消費税を負担することになり支出の増加となりますので，一方では，個人会費の収入を除く，諸々の収入に消費税をいただくことにいたしましたので，会員の皆様には負担増になりますが，ご理解願いたく存じます．なお，維持会員各社には維持会費を消費税の対象にすることをお願いいたし，ご協力いただきましたことをお知らせいたします.

本年度も予算の執行には細心の注意をもつて運営いたしますので，会員各位におかれましては，いつそうのご

協力を賜りたくお願い申し上げます.

以上議案説明の後，草川隆次監事より監査報告が行われ，満場一致をもつて議案第 1，2 号が承認された.

引き続き先に行われた選挙の開票が終わり選挙管理委員より候補はいずれも絶対多数で当選された旨報告された.

ここで会長，副会長，専務理事を互選するための臨時理事会が開催され，会長に八木靖浩君（留任），副会長に西澤泰二君（留任），岸田寿夫君（新任），木下　亨君（留任），専務理事に木下　亨君（留任），常務理事に島田　仁君（新任）が互選され，通常総会は終了した.

名誉会員推挙式

新名誉会員に次の 4 氏が推挙された.

岩村　英郎君　川崎製鉄(株)取締役相談役
塚本富士夫君　日本金属工業(株)代表取締役会長
久松　敬弘君　東京大学名誉教授・日新製鋼(株)取締役副社長
川合　保治君　九州大学名誉教授・新日本製鉄(株)顧問

表彰式

続いて表彰式に移り，下記のとおり各賞が授与された.

渡辺義介賞　細木　繁郎君
西　山　賞　坂尾　弘君
服　部　賞　永井　親久君　萩原　興吉君
香　村　賞　小倉　貞一君　森　禮次郎君
渡辺三郎賞　上野　利夫君　加藤　亨君
野　呂　賞　大森　康男君　川上　公成君　三井　太佶君

俵論文賞

藤田　正樹君　片山　裕之君　桑原　正年君
斎藤　力君　石川　英毅君　梶岡　博幸君
林　千博君　宇多小路勝君　山田　建夫君
渡辺　正喜君　中西　廉平君　田中　秀雄君
村田　正治君　貝瀬　正次君　新谷　紀雄君
千野　淳君　井樋田　睦君　岩田　英夫君
田中　努君　梶原　義雅君　稲田　隆信君

渡辺義介記念賞

井上　睦夫君　上田　仁君　郷農　雅之君
小林　清二君　中川　師夫君　永瀬　英典君
西原　久尅君　長谷川義彦君　藤原　淳二君
堀　珊吉君　堀井　英範君　山口富士夫君
山田　桂三君　山本　泰五君　山本　幸雄君

西山記念賞

伊藤　邦夫君　碓井　建夫君　大河内春乃君
大谷　泰夫君　大橋　徹郎君　尾関　昭矢君
小野山征生君　加藤　弘君　小林　俊郎君
篠田　研一君　中西　恭二君　根本　力男君
林　安徳君　日野　光兀君　細見　広次君

特別講演会

表彰式につづいて次の講演が行われた

「日本鉄鋼業と研究開発」
渡辺義介賞受賞　細木　繁郎君

「溶鉄の Si，Al による脱酸の平衡値決定に関する話題」
西山賞受賞　坂尾　弘君

第 117 回 講 演 大 会

講演大会は 4 月 4 日から 6 日の 3 日間横浜国立大学工学部で開催された.

講演大会　講演件数は製銑部門 76 件，製銑・製鋼共通部門 71 件，製鋼部門 101 件，萌芽・境界領域部門 70 件，加工・システム・利用技術部門 107 件，分析・表面処理部門 66 件，材料の組織・性質 183 件　計 674 件の研究が 17 会場にわかれ発表され，活発な討論がなされた.

湯川メモリアルレクチャー　4 月 5 日に開催された.

「Progress in Materials for Can Stock and Future Trends」

Mr. *Gilbert G.* Kamm

討論会　一般講演のほかに次の 6 テーマによる討論会が行われた.

1. 「高炉操業への AI の導入」
座長　稲葉　晉一
2. 「次世代の製精錬プロセス展望」
座長　徳田　昌則，副座長　池田　隆果
3. 「加工プロセスにおける AI 利用の現状」
座長　川畑　成夫
4. 「蛍光 X 線および固体発光分光分析の最近の進歩」
座長　真鍋　浩，副座長　岩田　英夫
5. 「家電用プレコート鋼板の加工性と耐食性」
座長　西原　実，副座長　大和　康二
6. 「金属学的モデルによる材質の予測と制御」
座長　矢田　浩，副座長　斎藤　良行

懇親会　懇親会は 4 月 4 日 18 時よりホテルリッチ横浜で日本金属学会と合同で開催された．和泉　修東北大学教授の司会のもと　八木会長，堂山日本金属学会新会長の挨拶の後，今大会の開催会場の横浜国立大学工学部長佐藤菊正教授のスピーチ，佐伯　修神戸製鋼所顧問の乾杯で始まり，380 名の参加者間で歓談がくりひろげられた.

ジュニアパーティー　4 月 5 日午後 6 時より横浜国立大学学内食堂で開催され，若手研究者・技術者を中心に懇談がなされ親交を深めた．参加者は 130 名であつた.